



関中央ロータリークラブ

2018-2019 WEEKLY REPORT

例会日：毎週木曜日 18時30分 例会場：関観光ホテル 住所：関市池尻 91-2
 事務局：関市西本郷通 5-2-53 TEL (0575) 24-7332 FAX (0575) 23-5278
 会長 波多野篤志 副会長 古田博文 幹事 吉田和也 クラブ会報委員長 塚原康寿

2018~2019年度 関中央ロータリークラブ会長テーマ
「自ら行動するロータリーへ！」



4つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日のプログラム 第1950回例会 2018年9月6日(木)
 卓話 子援隊 佐藤 隆一様
 ヘルシーライフせき 土屋ひろ子様
 テーマ ひとり親家庭と食育について / 担当 ロータリー財団委員会

前例会の記録 第1949回 2018年8月9日(木)
 ガバナー公式訪問 3RC合同例会
 /担当 会長・幹事

- *点鐘
- *国家斉唱「君が代」
- *ロータリーソング「奉仕の理想」
- *お客様の紹介 関RC会長 加藤浩二様
 RI第2630地区 ガバナー 木村静之様
 RI第2630地区 地区代表幹事 間宮久人様
 東海北陸道グループ ガバナー補佐 可児昌則様
 RI第2630地区R財団部門
 補助金小委員会 委員長 堀部哲夫様
 RI第2630地区R財団部門 補助金小委員会
 学友・学友担当 副委員長 井上重敏様

***会長挨拶**

関中央RC会長 波多野篤志
 本日は、ガバナー公式訪問です。また、



美濃 RC、関 RC、関中央 RC の3クラブ合同例会です。
 3クラブを代表しましてご挨拶をさせていただきます。
 国際ロータリー第2630地区ガバナー 木村静之様、
 同じく地区代表幹事 間宮久人様、東海北陸道グループ
 ガバナー補佐 可児昌則様、ロータリー財団
 部門 補助金小委員会 委員長 堀部哲夫様、同じく
 奨学金・学友担当 副委員長 井上重敏様、大変
 お忙しい中、お越しいただきましてありがとうございます。
 本日はご指導のほどをよろしくお願ひします。
 今日のご挨拶を考えていた時、ふと過去のロータリー
 はどの様なテーマで進んできたか大変気になったので
 少し過去の流れを振り返りながらご挨拶させていただきます。
 3年前は、岡田信春ガバナーが、「過去、現在、今、
 行動するロータリアン」～会長賞に挑戦しよう～を
 テーマに次のように述べられました。私たちに与え

られた時は今です。この機会は二度と訪れるものではありません。今行動するロータリアンになりましょう。と言われました。

翌年は、劔田廣喜ガバナーが、「最も出席するもの最も報いられる」をテーマに、例会出席の大切さを訴えられました。

昨年は、田山雅敏ガバナーが、「未来を創造しよう…10年後のロータリーは…」をテーマに10年後のあるべき姿を常に考えながら、クラブの自主性を高め、地域の魅力あるクラブ作りが前進することを目標に進められました。今年度のバリー・ラシンRI会長のテーマ、「インスピレーションになろう」Be The inspirationの下で、木村静之ガバナーは、「理念をかかげ 意欲を喚起し 共に行動」と呼び掛けられました。各クラブは、このテーマに沿って事業計画を立てられたことと思います。まずは、職業奉仕という幹の中にある奉仕の理念をお互いにしっかり掲げましょう。そして、奉仕の理念を学ぶ場が「例会」です。例会への出席を大切にしましょう。例会は「人生の道場」ですと言われ、例会の大切さを訴えられました。次に、会員の奉仕に対する意欲を呼び起こすことが大切です。会員一人一人の意欲を呼び起こすことが出来ればロータリーはより大きなことが出来、地域社会に、世界により良い変化を生み出すことが出来ます。また、みんなで共に行動することによりさらに大きな良い効果が得られます。と言われました。私はこの言葉に大変共感を覚え、今年一年会長として、例会を大切に、会員の意欲を高められるように行動しようと思いました。

本日のガバナー公式訪問及び3クラブ合同例会を機に、美濃 RC、関 RC、関中央 RC この3クラブがより親密になり、友好的にロータリー活動が進めていけることをご祈念しましてご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしく申し上げます

*出席委員会報告

会員数 33 名、本日の出席 19 名です。

*ニコボックス委員会報告

・会長・副会長・幹事

木村ガバナー様 本日の卓話よろしくお願ひ致します。

・小澤重忠君

ガバナー木村静之様のご来場を歓迎して。

22 名のご投函ありがとうございました。

*本日のプログラム 卓話

国際ロータリー第 2630 地区

ガバナー 木村静之様

皆さんこんにちは。先般の関市の

の豪雨災害は復旧がまだ途上との

こと、お見舞い申し上げます。また、昨日は美濃市で 41 度の最高気温を記録しました。どうかご自愛ください。

今年度 R I 会長のテーマは“Be The Inspiration”「インスピレーションになろう」です。バリー・ラシン会長はバハマのかたです。バハマは、米フロリダ半島とキューバの間、カリブ海に浮かぶ島です。テーマロゴはカリブ海の荒波を表しています。英語の INSPIRE は、「鼓舞する」「意欲を喚起する」という意味がありまして、「インスピレーションになろう」とは、ほかの人たちに「インスピレーションを与える」、「何かをやろうという意欲を吹き込む」、「心に火をつける」そういう人になろう、という意味になります。6 月に逝去された服部芳樹パストガバナーは「燃えよロータリアン」という名訳をされました。

ラシンさんは、前向きな変化を生み出す意欲を、課題に立ち向かう意欲を、クラブからも、地域社会からも、組織全体からも、引き出したい、意欲を引き出すための「インスピレーション」になりたい、あるいはなっほしと述べておられます。

今年度の、私のガバナーとしてのスローガンは、「理念をかかげ 意欲を喚起し 共に行動」というものです。まず、「理念をかかげ」ですが、近年、世界のロータリーの趨勢はいささか「奉仕活動のロータリー」に偏っていて、理念が薄くなっているという意見が出ています。

奉仕活動のロータリー 増強、財団、寄付、プロジェクト推進を重視する面

理念のロータリー 職業奉仕、4 つのテスト、例会を重視する面

私は、奉仕プロジェクトを活発に行うことは非常に大切なことだと思っています。ただ、世界では新興



国の会員が増えてきたということもあって、「奉仕活動のロータリー」に傾いていると言えます。そのため「ロータリーの多様性」を認めざるを得ない状況で、2016年の規定審議会において大きな改正がなされ、例会は月2回でもよいとされました。当時のRI会長が「例会を何回開いたかよりも、地域社会にどのような変化をもたらしているかのほうが重要だ」と述べました。サンディエゴの国際協議会での私の体験でも、新興国は先進国のロータリーから援助を引き出すことに熱心です。こうした新興国の会員が増加する一方で、先進国の会員が減少し、「奉仕活動のロータリー」に偏っている状況にあります。そういう状況で、私はあえてロータリーの原点である理念を強調しなければならないと思うのです。

まず、職業奉仕の幹の中にある「奉仕の理念」をしつかりとかかげる。「かかげる」とはロータリーのモットー・四つのテスト・ロータリーの目的（綱領）に表される基本理念をいつも意識して、職業生活・社会生活で実践することです。最近も、日本を代表する企業で「偽装事件」などが発生しています。「産地の偽装」とか「等級の偽装」といった事件も発生しています。我々ロータリアンの感覚からすれば由々しき問題だと言わざるを得ません。

そして、大切なのが例会です。例会は、職業人としての倫理を向上させ、互いに切磋琢磨し学ぶ場があります。例会のプログラムを大切にし、例会への出席を大切にしたい。理念の浸透を図るのは例会です。仕事で忙しい世代は、例会に出る時間を作ることに苦労しているかもしれません。しかし、例会に出れば先輩や友人に会えるし、顔を合わせてこそ信頼関係を育むことができるのです。「例会に出席義務がある」といいますが、義務感から出席するのではなく、楽しいことがあるから出席するというようになっていただきたい。他方、例会のプログラムを企画する側も工夫をして、例会に出席してよかったという気持ちで帰ってもらえるようにしたいものです。クラブ内での研修態勢を整えることも大切です。クラブの中に「研修リーダー」を作ることがを推奨したい。情報委員長との兼任でも、職業奉仕委員長との兼任でも結構なので、クラブの中で研修全般に配慮

する人がいてほしい。

次に、会員基盤の強化が必要です。日本のロータリーは20年前に13万人でしたが、今は9万人です。漫然と放置すれば存続自体が危うくなります。若い世代にも、社会経験豊富な退職者世代にも、女性会員にも入っていただきたい。今や、女性が職業を持つのも社会的な活動をするのも普通になっています。会員構成もそれに応じて多様になってほしい。世界で女性会員の割合は今20.7%ですが、日本は6.6%、当地区では5%（三重県7%・岐阜県3.5%）です。これを5年以内に15%以上にしたいと提唱されています。

昨年度の増強の状況は、地区全体で45名ほど純増したようです。これは好成績です。皆様のご努力の賜物です。他方、各クラブ平均1人増えれば地区全体で75人増えるはずですが、そこまでできていません。よく増強セミナーで、増強のためにどうすればよいかという話が出ますが、私は、クラブの中で一人一人の会員を大切にすること、会員が奉仕に対する意欲をもつこと、クラブを魅力あるものにする事であると思います。

次に、意欲を喚起するにはどうしたらいいのかということ。ラシン会長は行動力のあるリーダーらしく、意欲を喚起するには「熱意を持って強く伝える」とか「自らの行動で範を示す」、ということを言っておられます。私は、少し視点を変えて「感動体験を話そう」ということをご提案します。ロータリーでの感動体験をお互いに話すことです。ロータリーでは、見返りはお金ではなく感動です。奉仕活動で感動したこと、職業奉仕の面でも感動したこと、そういう感動体験は自分自身の中でさらなる意欲となりますし、そのような話を聞いた人も意欲が湧いてきます。

次に、共に行動です。奉仕活動として何をするかは、各クラブの情報収集と創意工夫です。地域社会で改善すべき点、あるいは世界で必要とされている課題は何か、という観点で取り上げていただきたい。どんなプロジェクトをするかは、地区の奉仕プロジェクト委員会からも情報を得ることができます。「財団の地区補助金」を活用した奉仕プロジェクトは、

多くのクラブで実行されています。「グローバル補助金」は、少し規模の大きい国際的な活動ですが、挑戦する価値はあると思います。

グローバル補助金事業としてご紹介したいのは、当地区の中津川クラブと中津川センタークラブが行った「母子の健康」に関する事業です。RIの2016-17年度年次報告に取り上げられました。ブラジルのサンパウロ州で乳児死亡率が高い地域があって、地元のレジストロロータリークラブと中津川のクラブが共同して、現地の医療施設に医療機器を提供するとともに、住民を対象に産前ケアのワークショップの推進をしました。中津川市がレジストロ市と姉妹都市というご縁だったそうです。

もうひとつご紹介したいグローバル補助金事業は、「基本的教育と識字率の向上」の分野で、今年度、当地区の多治見リバーサイドクラブ、美濃加茂クラブ、鈴鹿バイククラブが、タイのシロムロータリークラブと共同して、タイの「教員の研修」プログラムと80校に教材を寄贈する事業が決まりました。グローバル補助金事業は、6つの重点分野に該当するという要件や、持続可能性という要件が必要です。現地の人たちが活動に加わるといったことも必須です。言語など意思疎通が難しいことがあります。地区の委員会（奉仕プロジェクト委員会、国際奉仕委員会、財団委員会）がサポートしてくれます。

持続可能性について。持続可能性（sustainable）という言葉は、最近、国の政策で「持続可能な開発」とか「環境の持続可能性」、企業経営で「企業の持続可能性」などと言われます。ロータリーでは、「持続可能な変化をもたらす」ような事業と言われます。単に物を寄贈するだけというのではなく、現地の人も加わって、将来的に現地の自助努力でやっていけるように援助する、ということが大切です。「魚を与えるより魚の取り方を教える」ということです。

ロータリー財団は、世界では非常に高い評価を受けています。お金の使い道、使い方、透明性、いずれの面でも高い評価を受けています。時々、「財団の補助金は要件が厳しくて使いにくい」という声も聞きますが、それは、財団委員会が、ルーズな使い方にならないよう管理しているからです。財団はロー

タリー以外からも広く寄付を集めていますので、その意味でもルーズな使い方はできません。

次に、公共イメージと認知度の向上についてお話しします。ロータリーは意外と世間に知られていません。あるいはロータリーという名前が知られていても、どんな活動をしているかは知られていません。「いいこと」をしてそれが人々に知られれば広がりができます。世間から注目され、人が集まるようになり、我々の励みになります。その結果、増強にもなり、奉仕の拡充になります。方法としては、奉仕活動の機会をとらえて、視覚的に伝えるのが効果的です。チラシ・パンフレット・横断幕などです。クラブがこれまで地域社会で行ってきた活動を伝えるとともに、「4つのテスト」などロータリーの理念も伝え、ロータリーがポリオ撲滅に力を入れていることも伝えたい。

“PEOPLE OF ACTION”「世界を変える行動人」はRIのキャンペーンです。たとえば、奉仕活動の写真を掲載する場合に「行動」をイメージできる写真にする、など提唱されています。このロゴはマイロータリーからダウンロードできます。チラシなどに使ってみてはいかがでしょうか。

ロータリー賞、RI会長特別賞を目指していただきたい。昨年まで「RI会長賞」と言っていました。3つの戦略的優先項目に沿って項目がいくつか並んで選択するようになっていました。それほどハードルは高くないので達成可能です。目標に挑戦することによって意欲を喚起することができます。

ポリオ撲滅の問題があります。30年前、野生型ポリオウィルスによって麻痺障害を発症する人（子ども）は、毎年推定35万人でした。それが、99.9%以上減少しています。現在発症が確認されるのは、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3カ国だけです。3年間続けて0になれば撲滅したと言えます。今年になってアフガニスタンとパキスタンで7月までに12件発症が確認されています。残る0.1%のポリオとの闘いが問題です。ワクチン投与の妨げとなっている要因は、遠隔地、不十分な公共インフラ、紛争、文化的障壁などです。ポリオ撲滅が実現すれば、ロータリーの人道奉仕の成果として、

歴史に残ります。引き続き寄付のご協力をお願いします。

もうひとつは、環境の持続可能性を守ることです。ラシンさんも講演で強調していました。環境汚染は、毎年、170万人の子どもの死亡原因となっています。また、地球規模で、現在、40億人が深刻な水不足を抱えて暮らしており、地球温暖化で海面が上昇すると島国は水没してしまいます。ロータリーが、先手を打つことのできる組織となれるよう願っています。

日本のロータリー100周年について。日本のロータリーは1920年に東京で創設されました。このたび、「100周年実行委員会」から、各地区に、記念の鐘（ゴング）が贈呈され、ガバナー公式訪問の際に点鐘していただいております。台座に地区全クラブの名前が刻まれています。

米山梅吉記念館についてお話しします。静岡県にあります。これも創立50年になります。米山梅吉さんの遺徳を顕彰し広く知っていただく趣旨で設けられました。大修理の必要があることなどで、募金を全国のロータリアンに呼びかけています。米山奨学金の寄付とともによろしく願います。また、記念館を一度見に行ってください。

10月に岐阜市で地区大会を開催いたします。多数の皆さんのご登録をお願いします。以上で私の卓話を終わります。ご清聴ありがとうございました。

***地区大会のご案内 地区代表幹事 間宮久人様**

***お礼のことば・閉会挨拶**

美濃RC会長 古田博規様

木村ガバナーには本日は大変お忙しい中おいでいただきましてありがとうございました。短い時間に大変内容の濃いお話をして頂きました。参考にさせて頂き、各クラブ、個人個人で実践していきたいと思っております。本日は本当にありがとうございました。

***点鐘 関中央RC会長 波多野会長**

<次例会の案内>

第1951回 2018年9月13日（木）

会員卓話 土屋敏幸会員

テーマ 「てきとうな話」

担当 米山記念奨学委員会